

山形県歯科技工士会

押しかけレクチャー「女性のための B 型肝炎と HIV 感染症の基礎知識」

歯科の HIV 診療体制整備班

日技認定講師 大西 正和

「押しかけレクチャー」は、「B型肝炎の基礎知識とそのワクチン」と「HIV 感染症と AIDS について学ぼう!」というテーマで、近畿圏の歯科技工界を対象に実施しているものですが、このたび、山形県歯科技工士会女性部会のお世話で山形市まで足を延ばすことになりました。今回は、このレクチャーの単独開催であり、また、同県歯科衛生士会もご参加くださることですので、「歯科における感染症対策の考え方」についてもお話しさせていただきます。

さて、B型肝炎ウイルスは、血液を介して感染する病原微生物の中では最も感染力や薬剤に対する耐性が強く、乾燥状態でも 1 週間以上も生きているという複数の文献があります。1 週間という一般的な補綴物等の作業期間に相当しますので、「歯科技工士は絶えず感染の危険にさらされている」と言えます。また、このような作業用模型が、完成した補綴物等とともに納品され、診療エリアを再汚染する可能性もあります。

ところが、このような環境にありながら、多くの歯科技工士は病原微生物や薬剤についての知識をほとんど持っておらず、感染リスクに対して無関心、無防備のまま技工作業にあたっているのが現状です。

ただし、幸いなことに B 型肝炎にはワクチンがあり、この接種により抗体を獲得することで感染を予防することができます。しかし、この接種率は、歯科全体で過半数に達しておらず（歯科医学会調査/2012 年）、歯科技工士ではゼロに近いと推測されます。

B 型肝炎は、発症すると最悪の場合は死に至る感染症であり、治癒したとしても長期間の入院を余儀なくされます。また、女性が仕事と結婚、出産、育児とを並立していくことが一般的になりつつある昨今、母子感染というリスクからは、女性の歯科技工士や歯科衛生士がこの接種をせずに就業することはたいへん危険であると言わざるを得ません。

ちなみに、平成 28 年度から全ての 0 歳児に対する公費による B 型ワクチン接種、すなわち「国民皆ワクチン」が実現しました。このような状況からも、一般人より B 型肝炎に対するリスクが高いわれわれ医療関係者に対する接種は不可欠と言えます。

また、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）は、HBV（B 型肝炎ウイルス）や HCV（C 型肝炎ウイルス）に比べると、感染力と、薬剤に対する耐性ともに遥かに弱いのですが、医療従事者の認識不足から必要以上にこの感染症を恐れる傾向があり、HIV 感染者の歯科治療を受け入れた歯科医院でスタッフが退職してしまったという複数の事例もあります。医療従事者による HIV 感染者に対する偏見や差別は許されるべきではなく、正しい認識による冷静な対応が必要です。

本レクチャーでは、「Standard Presentation」や「Zone」という感染対策についての基本的な考え方も併せてお話し、皆様とディスカッションしたいと思います。